

臨床工学技士による穿刺業務開始における患者待ち時間改善の評価

齋藤 稜太¹、津田 圭一¹、室市 秀久¹、山田 隆裕¹、元木 康裕¹、吉原 克則¹、酒井 謙²

東邦大学医療センター大森病院 臨床工学部¹

東邦大学医療センター大森病院 腎センター²

【目的】

臨床工学技士(CE)穿刺業務開始前後の患者待ち時間を比較し、実際に改善されているか検討した。

【方法】

CE 穿刺業務①開始前、②開始直後、③開始半年後、④開始1年後、⑤開始2年後の各7日間、入室時間から人工透析を開始するまでの時間を測定し平均時間を求めた。検定にはt検定を用いた。また上記期間の医師およびCE穿刺回数を比較した。

【結果】

医師穿刺の平均待ち時間は①12分33秒、②15分51秒、③18分46秒、④20分31秒、⑤21分4秒であった。①と各期間で $p < 0.05$ となり、有意に延長した。CE穿刺の平均待ち時間は②9分54秒、③11分34秒、④14分31秒、⑤12分4秒であった。CEにおいては、⑤の期間で有意に短縮した。医師の穿刺の割合は①に比して②88.0%、③56.4%、④22.8%、⑤35.2%と減少傾向を示した。

【考察】

CE 穿刺業務開始後患者の待ち時間は延長した。しかしCE穿刺を重ねる内に、CE穿刺可能患者の増加、穿刺者の増加と技術向上により2年以降短縮したと考えられる。医師穿刺の待ち時間は、穿刺困難な症例が多かったため延長したと考えられる。またCE穿刺開始1年以降、CEが半数以上穿刺を行っているため、医師の仕事量は軽減したと考えられる。

【結語】

今回、患者待ち時間は短縮できなかったが、今後CE穿刺者増加と技術向上で短縮は可能になると考えられる。